

令和元年度阪神北地域夢会議 議事録

1. テーマ:2030年の展望～阪神北地域のかがやく未来を語り合おう～
2. 日時:令和2年2月9日(日) 13:00～16:00
3. 場所:宝塚市立中央公民館 ホール
4. 参加者:104名(一般参加者55名、ビジョン委員26名、来賓6名、専門委員4名、アドバイザー1名、オブザーバー3名、兵庫県9名)

【中川宝塚市長あいさつ】

阪神北の5つの市町で地域の将来を議論すると、私たちにとって暮らしやすく魅力にあふれた街にするために色々なアイデアが湧いてくると思います。それをうかがって行政としてさまざまなビジョンとしてしっかりと歩みをそろえて前に進んでいきたいと思っています。夢を語り合うことによって支え合うまちづくりができてくるとしています。ひとつのまちだけでそれを実現するのではなく、広域で隣近所のまちと市と仲良くして阪神地域のより素晴らしいまちづくりをともに進めていきたいと思っています。

宝塚は歌劇のファンが増えて、106年になったが、去年は映画館でのビューイングを含めて東京宝塚劇場、宝塚市の劇場で350万人の人が宝塚歌劇の舞台に酔いしれた。そのような歌劇を抱えている宝塚ではあるが、猪名川も川西も伊丹も三田もそれぞれ個性があり、素晴らしい財産がある。お互いに連動しあって、ともに響きあうまちづくりが夢会議で議論していただきたい。

【委員長あいさつ】

阪神北地域では、阪神市民文化社会ビジョンで定めた地域社会のあり方を示す基本理念と4つの行動目標に基づいてビジョンの実現に向けて行動していません。

少子高齢化とICT技術の急速な発展により時代の転換期を迎えています。自然災害の頻発など、新型コロナウイルスが世界を震撼させるなど看過できないことが起こっています。

今日は2030年の展望～阪神北地域の輝く未来を語り合おう～と題し、約10年後の将来像について、様々なご意見を頂戴したいと考えています。限られた時間ではありますが、活発な議論をお願いします。

【グループ討議結果発表】

《地域の元気づくりA》

少子高齢化が進むなか、地域活動の担い手が減り、地域コミュニティに様々

な問題が生じる。人口減少による空き家の増加と家屋の老朽化、休耕田の増加、里山の管理が行き届かないという課題が見えてくる。

地域の元気づくりのためには、地域の元気が必要だ。住民主体のまちづくりが必要である。地域の元気づくりには元気な人づくりが必要である。次世代につながる活動とその場所が必要だ。

《地域の元気づくりB》

現状の課題としては、住民とのつながり、世代間の連携が希薄である。少子高齢化、商店街が最近閉店している、空き家が多いということ。将来像は、地域を元気づくり、活性化させるためにはどうしたらよいかを話し合った。地域で集まる場所をもう少し増やした方がいいのではないか。小学校の時はいろいろ集まる場所があったが、中学校、高校生になるとそのような機会が減ってきた。挨拶、知らない人としゃべってはいけないということから挨拶が少なくなってきていると思う。安全性をもっと高めて挨拶をすればいい。もっと多様性を受け入れるべきだ。いちばん意見を聞かないといけない世代の意見を吸い上げられていないのではないか。集まる人が偏っているのではないか。忙しい世代、いちばん困っている世代の意見を吸い上げる方法、インターネットとかフェイスブックとかツイッターとかをもっと活用するという解決策が必要なのではないかという意見が出た。

《全員活躍社会》

全員が活躍できる社会は何かと考えたときに、自分たち高校生は、社会人の人は仕事をしているだけでも活躍していると考えた。最近活躍できる人とできない人の差が出来て生きた。その理由が学歴社会や年齢や性別など、様々な問題があり、差別を受ける。それに関係なく自分がやりたいと思うときにできる社会を作りたいと思った。

現状の問題として、スマホは高齢者には悪い印象があって、若者は使いやすい、おもしろい。高齢者にも使用法を理解すれば、緊急のときに役にたつと思う。

将来像としては性別や年齢など関係なく、自分がやりたいことをやれる社会になってほしい。

《子育てグループ》

現状の問題となる意見として待機児童という意見が多かったため、待機児童について話し合った。昨年10月に保育料無償化というもので、企業内保育所を廃止するという企業が増えたということがあげられた。

学童保育の資格者がいなくても働ける状況をつくる、国や県がこども保険の支給をするということが解決策としてあげられた。

子育て手当の支給、あらゆる子育ての環境整備のため、一定年齢以上の納税者から子ども保険を納入してもらい、介護保険のような制度をつくる、こども手当の支給方法を一人目から増えるにつれて、手当の支給金額を高くしていくということが考えられた。子供をもつお父さん、お母さんにとって、子育てしやすい環境になればいいと思った。

《防災・減災グループ》

よく出ていた意見として、普段からコミュニケーションをはかる、となり近所のコミュニケーションを図る、増やすということがあげられた。避難所の指定場所としてほしい小学校が避難所になっていることが多いが、すぐには入られるわけではない。避難所内の準備が必要。名簿があること。準備していると思う。

水の問題があるが、県や市が非常時に井戸水を活用するという方法を進めているので、備蓄品として大事である。

《自然との共生Aグループ》

課題は里山の保全ができていない。生物多様性がだんだんなくなっているという問題がある。市街地でも緑がない環境となっている。防災がらみでも土砂崩れのあとがなおっていない。

自然保護がどうか。なによりも少子高齢化で田舎に人がいない。整備する人がいない。予算がない。跡継ぎがいない。休耕地が増える。

これを解決するには、地域交流ということで、もっとコミュニケーションをとって人が交流したり、アイデアを出して得意分野を伸ばしていけばいい。何よりも人と人との交流が大事だということに気が付いた。将来、どうしていけばいいかということは、その地域の特性を活かしたもの、そんなにお金をかけなくても手をかけなくても、できることからやっていって、ゴールは地場の産業を開発して、みんなで思いをこめておいしいもの素晴らしいものを作って、まちのブランドとすればいいのではないかということになった。

《自然との共生Bグループ》

現状と課題点は大きく分けて3つ出た。ひとつめは太陽光発電について、ソーラーパネルを休耕田に設置することで起こる環境への影響、野鳥の森の近くにソーラーパネルを設置することによる、野鳥の森への影響。ふたつめは地球環境について、オゾン層の破壊やエネルギー資源の使い過ぎ、ダムの開発や企

業の誘致による森林開発で緑が減ってしまうという、国や世界規模で起こる大きい問題。3つめは自然との共生で住宅の都市開発、蛍とか猪とか鹿とか野生動物が減ってきていたり、街に出てくることによって自然とのバランスの崩れ。それらの現状と課題点を踏まえたうえで、考えた理想の将来像は、太陽光発電は、太陽光パネルを屋根や屋上などに設置することによって、場所を有効に活用することや、土地とソーラーシェアを行うことという結論が出た。地球環境については、子どもや若者の関心をアップさせるために、子どもなどに向けて自然調査や畑仕事などを報酬あり、ゲーム感覚でやるということ。地域の過疎化についての解決策は SNS などを使った地方の魅力や取り組みの発信をして、外国人や若者に向けて関心を持ってもらう。SDGs の考え方が浸透してもよいという意見があった。私たちの学校（高校）では探求の活動の一環として、SDGs のターゲットについてそれぞれが取り組んだが、そういうふうに学校で授業の一環として取り入れることが出来たら、若い人たちにも SDGs のことを知ってもらえる機会になるので、そういうことが出来たらいいなと思っている。

《起業》

起業グループでは起業に関するだけでなく、ほかの課題にも置き換えられるようなものばかり出てきた。少子高齢化であったり、人口の偏りであったり、転職へのよくないイメージなど。課題解決策としては、学生拠点の場であったり、コワーキングスペースであったり、話す場をつくる、場を広げる、自分で話をすることをもっと拡大していくことが必要。輪を広げて自分の関係を広げ、それを地域から全国、世界、宇宙に広げる。どんどん広げることが重要でそれが、社会の貢献であったり、利益を広げることができるのではないかという意見があった。メンバの一人が「動くのはお金ではなく、ひとが動くのだ。」と言った。自分で動いて、自分から何か進めることが、自分のことだけでなく周りも動かすといういい言葉だ。最後にひとつだけ言っておきたいことがある。覚えて帰ってほしいものがある。起業の最後の将来像のなかで、これが大事だといったときにみんなが納得したものがある。グループメンバーの高校生が「このような夢会議をもっと増やしていく。」これはすばらしいことだと僕は思った。このような機会を増やしていくことで、起業のことだけを話していたつもりが、気づいたらこれから何ができるのかということにつながる事になっていた。

《地域資源の発掘・魅力発信グループ》

目標は内外の人々の交流による阪神北地域らしい魅力的で多様な地域づくりということで3つあげている。まずひとつめはインバウンドのことである。

インバウンドの活力を積極的に活用する方法として現状は外国人旅行者に向けての基盤が不十分であるということである。解決策としては、一つめは観光しやすい周辺施設の整備充実である。外国人は団体で来られるので、観光バスの駐車場もある。ふたつめは食。食べるものは関心が非常に高い。食の充実があげられる。回しやすいように周遊チケットがあればいいなという意見があった。

ふたつめは阪神北地域の特性を発揮させていくうえでの課題ということで、現状は4市1町の連携がかならずしも十分でない。交流ができていないということ。

将来像は産官学民の連携の実現と地域連携協議会の設立が解決策である。3つめに地域資源や人材を発掘し、活かしていくうえでの課題がある。将来像としては一元化された情報が瞬時に共有できるシステムがあればいい。

日本遺産に認定された中山寺、西国三十三か所を観光施策に活かしていきたいということがあった。将来像としての「一元化した情報」ということでは、例えば写真コンクール、芸術的な写真を求めるのではなくて、こういうところがありますよというような写真コンクールがあればいいかなという意見が出た。

【金澤副知事の講評】

今日の参加者は高校生から80歳を超える方まで歳の幅からいうと70年の開きがある皆さんと一緒に議論をされました。私がうかがっていて感じたのは、今の社会、兵庫県が一番根っこになる課題が、どんなテーマで議論していてもある程度共通しているのかなということです。一番大きいのは、生まれてくるお子さんの数が減って、若い人が兵庫から首都圏に集まる、結果としては兵庫県のなかではどちらかというと高齢者が増えて、若い人が減っていつてしまう、そうするとそれぞれの地域、これから未来のことを考えれば考えるほど、未来を担うべき人がだんだんと減っていつて、家の世話、田んぼの世話、地域のコミュニティの維持、色んな問題が生じてくるのではないかという、どんなテーマを議論していても共通の社会の流れとして皆さんは意識されたのではないかと思います。

実際に数字で言っても1年で7,260人の人口移動による減少がありました。これは生まれてくる方、亡くなる方の出生、死亡の差は反映していません。内訳をみると20代の人だけ、20歳から29歳までの人の移動を見てみると7,100人減少しています。ということはすべての世代で7,260人のうち、20代に限ってみても7,100人でほとんど20代の若い人たちが兵庫県から流出していることが分かります。地域はどことの間で移動があるかという、首都圏、東京・千葉・埼玉の3県に対する減少が8,700人です。高校生の皆さんも、ずっとこの兵庫で暮らし続けるのか、大阪や東京に行くなど、夢を持っています。そういう夢は夢で大切だと思います。いろんな可能性がありますから、その色んな可能性は応援したい。でも片方で、この兵庫の地域を、未来を支えてくれる若い人たちがいなくなってしまうと困る。ということで、この解決が非常に難し

い。よその地域で育った人は、例えば東京で生まれ育った人は東京よりは兵庫の、北摂、里山がある地域の方があるいは淡路島の方が魅力だと考えてくれる人もいるかもしれない。そういうふうを考えてもらえるような地域をつくっていきましょう、というのが我々がこれから取り組まなければならないテーマです。

皆さんの発表はテーマは様々ですが、いくつか共通して指摘していただいたことがあると思います。そのひとつが、人と人とのつながりを大切にするということ。

ふたつめに気づいた点が、若い人たちがいま使っている道具、スマホにしてもSNSにしても、ゲーム感覚で子どもが学ぶ。そういうものはときどき考えが及ばないことがあります。ひとまわり昔、12年前、おそらくスマホを持っている人はほとんどいませんでした。わずか10年の間に、誰も持っている。スマホを使って、どういう道具を使ってやりとりをするかという、もうフェイスブックが古いとか、インスタグラムも時代遅れだよねという声もあり、日々変わっています。この変わり方についていくのは容易ではありません。若い人たちがいまどういう状況にあって、どういうコミュニケーションをしているか、しっかり知らないで、これからの時代の人を惹きつける地域づくりがしにくいということを感じさせられました。3つ目のポイントは、これは特に阪神北に当てはまることかもしれないですが、里山とか地産地消の取り組みとか、ソーラーシェアリングなど、割と環境が豊か。地域が持っている資源、そんなに派手でもなく、けばけばしくはなくとも、大切な資源をこれからも守っていかなければいけない。そういう内容が、各班の色々な発表のなかにあったと思います。もう一度改めて、いま阪神北地域で色々な人が取り組んでいるものをしっかり掘り起こして意識をして、応援をしていかなければならないかなと思った次第です。

2030年というのは10年先で、今取り組むべき事柄、ビジョンですが、もっと長い目で見て2050年、今の高校生がまさに社会の中核になっている頃、そういう時代に日本はどうなっていくのか、現状を離れて、今の縛りを離れて話し合う、長期のビジョンもあった方がいいんじゃないかということで、長期ビジョンの議論をスタートしようとしています。この長期ビジョンの議論をする主役は、おそらく若い方になると思います。若い人中心に、もうちょっと長期のビジョンを議論して共有できる材料を見出したいなと思っています。地域の皆さんと一緒に取り組みたいと思っています。大勢ご参加いただいた皆さん、これからも力を貸していただき、皆さんも一緒に作り上げていくということでお願いいたします。参加していただいた皆さん、熱心に議論していただいた皆さんに県を代表してお礼申し上げます。

【坂本阪神北県民局長のあいさつ】

寒い中、寒さを吹っ飛ばす、熱い議論をしていただきありがとうございます。皆さんと地域のことを考えて、意見を交わして、何かやってみる。そこから未来が見えてくる。有名な学者のアラン・ケイの名言がある。「未来をよくする最良の方法は、自分たちで

その未来をつくってしまうことだ。」こうして皆さんに集まって議論していただいたことも参考に施策に取り入れて、皆さんと一緒にこの地域の未来をつくっていくということができないか考えていきたいと思います。つくっていきましょう。